新卒訪問看護師として働いて

公益社団法人 徳島県看護協会
訪問看護ステーション徳島

訪問看護師を目指したきっかけ

看護学生の頃、実際に働く訪問看護師さんの講演を聞いた。
在宅看護に興味を持った！・・・が

新卒で訪問看護なんてできるのか？
どのようなことをするのか？

たくさん不安があった。

訪問看護師を目指したきっかけ

インターンシップに参加。

利用者に丁寧に向き合いケアする姿にとても魅力を感じた。

新卒で、
訪問看護の道に進むことを決めた。

訪問看護師になって

看護学校を卒業後
徳島県看護協会 訪問看護ステーション徳島に入職

2年間の過程

◆ シミュレーターでの
看護技術の確認や演習

◆ 毎日の記録

◆ 振り返り会議や交流会

◆ 研修への参加

・医療安全

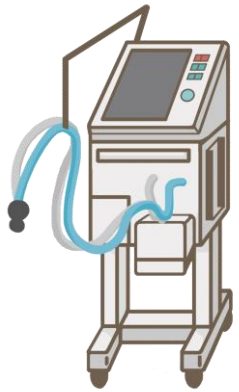
・フィジカルアセスメント

・緊急時対応

・看取りについて　等

事例紹介

- 事例１（男性　ALS）



高齢の妻が1人で介護をしている。
訪問介護や訪問看護など様々なサービス毎日利用。
チームで連携し自宅での生活をサポートしている。
訪問時は妻の不安や困っている事を聞いた上でケアを実施。

吸引しても
上手く痰が引けん。
どうしたらいい？

痒いっていうけど
どの薬を塗ればいい？

吸引、気切部・胃瘻処置
モーニングケア、口腔ケア
膀胱留置カテーテル・人工呼吸器管理

- 事例２（女性　結腸憩室炎　ストーマあり）

日常生活は自立。
ストーマ管理が必要であり、週２回入浴介助のため訪問。
ストーマの浮腫や周囲の皮膚状態、排便状況確認。
本人の話を傾聴し、助言や指導も行っている。

入浴介助、ストーマ管理

電話対応や緊急訪問

定期訪問以外に電話対応や緊急訪問がある。

一人で対応できるようになるまでは先輩看護師の緊急訪問に同行。

・電話で対応できるか、訪問する必要があるか
・利用者がどんな状態であり、何が必要か電話での情報収集
・訪問先での対応、本人・家族への説明　等を学んだ

◆実際に出動した事例

女性　ALS

自己で吸引手技は獲得。
夜間に痰が引ききれず
呼吸苦があり訪問依頼

男性　大脳皮質基底核変性症

家族が食事のためベッドから車椅子
に移乗する際に転落。
手伝ってほしいと訪問依頼

- 他にも点滴の差し替えやおむつ交換、エンゼルケアにも緊急訪問し対応した。

終末期にある利用者との
最期までの関わり

- 卵巣癌末期の利用者
  治療が困難となり、本人が在宅療養を強く希望され訪問開始。
  ADL低下・食事量の低下、呼吸苦の増大がみられ
  在宅酸素を利用（3L）→ SPO2=90％以下

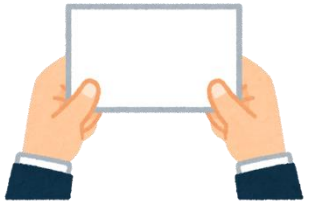
  常に苦悶表情がみられたが看護師が声をかけると
  力をふりしぼるように笑顔をみせてくれた。

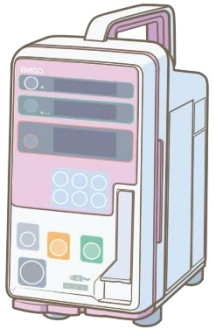
家族は･･･
利用者の状態や病気に対する受け入れが容易ではなかったため、
毎日状態の説明を行い、家族の思いを聞きながら
スタッフと共有し、じっくり関わった。

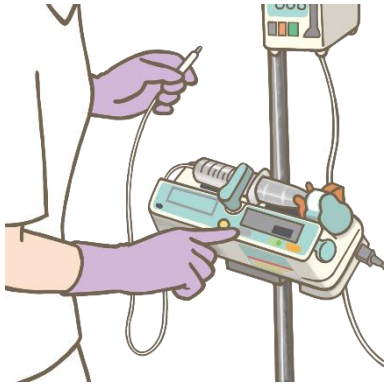
調子が良い時は家族旅行の思い出を
家族と思い出しながら楽しそうに話して下さった。

最期は家族と一緒にエンゼルケアを実施。
「自宅で過ごせてよかった」「看護師さんが来てくれて喜んでいた」
と言って下さった。

困ったこと







①慣れない名刺交換や電話対応
②臨床の場で使用する医療用語
③在宅用の医療機器の取り扱い方法

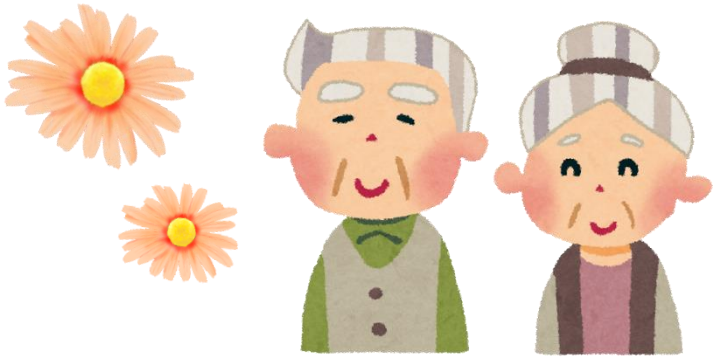
↓

①接遇研修の受講、先輩看護師の電話対応を一緒に聞いた。
②申し送りや医師からの指示など、わからない単語はメモに取り後から聞くようにした。
③訪問先で実際に何度も触れ、アラーム対応や家族への説明等を学んだ。

訪問看護師になって良かったこと

- 利用者の環境や生活背景などから利用者のことが理解できる。
- 1人1人とじっくり向き合う看護ができる。
- 訪問の間はその利用者だけに時間が使える。
- 様々な疾患の利用者と関わることができ、学びが多い。

やりがい



- 利用者さんと良い関係が構築でき、親しい存在として様々な相談をしてくれる。
- 「安心した、ありがとう」「これからもうちに来てね」とありがたいお言葉。
- 「家で過ごせるのが1番うれしい」と利用者自身が嬉しそうな瞬間。

最後に

はじめは不安ばかり。利用者さんや家族とじっくり向き合える
看護ができることが嬉しく、毎日が充実しています。

新卒訪問看護師として一緒に働ける仲間が
増えることを願っています。